「戦争から平和へ」

読谷小学校　四年二組　比嘉　優希

「戦争は、おばあが体験した中で、一番こわくて、つらい、人の命もうばう悪いものさー。」

おばあちゃんは私に、戦争であった出来事を、去年のいれいの日に語ってくれた。

おばあちゃんは十二才のころ、あの、「戦争」を体験した。

まず、私は、おばあちゃんがどこのガマに行ったかを聞いた。

「おばあ、おばあはどこのガマに行ったの？」

「おばあは、シムクガマに行ったさー。」

私は、おばあちゃんがチビチリガマににげていたらという事を考えた。考えてみたら、おばあちゃんは死んでいて、私はこうして生まれていなかったと思う。お父さんも。私は、おばあちゃんにとっても感しゃしないとい

けないと思った。心の中で私は言う。「おばあ、シムクガマにげてくれてありがとう。」

次に私は、どんな事があったかを教えてもらった。おばあちゃんには、いろんな事があった。その中でいんしょうに残った話がある。その話は何もかも、私には考えきれなかった。

「目の前でばくだんがおちたわけさー。次々に人がたおれていったさー。」

この言葉は、私の頭からはなれない。私はこわくなって、目をぎゅっととじた。こわくなったので、私は、戦争が終わってうれしかった事を教えてもらった。

「沖縄が平和になった事が一番さー。」

「他には？」

「みんなが元どおりになったことさー。」

私は、これから、今より仲のよい未来を作ろうと思った。